

[政策分野] 都市基盤 1 土地利用・都市景観

第6次総合計画期間における成果

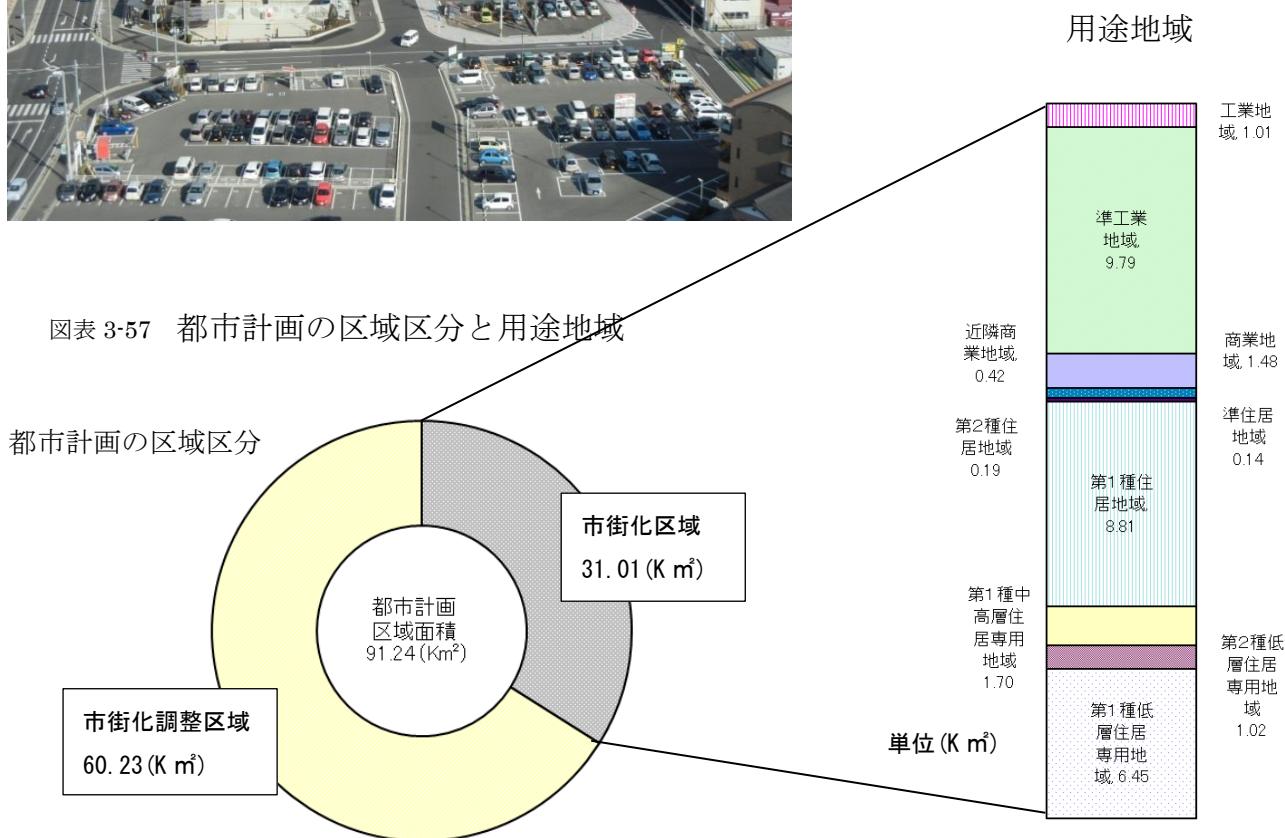
多治見市における集約・再生型都市計画の推進を念頭に置き、区域区分の見直し、用途地域の変更や、本市独自の条例にもとづく美しい風景づくりの推進などにより、地域の個性や自然環境との調和に配慮した都市生活空間の整備を進めてきました（図表3-57）。また、地籍調査の着実な実施は、土地の有効利用に寄与するきっかけとなっています。

駅北地区では、土地区画整理事業を実施し、JR多治見駅の橋上駅舎化や市役所駅北庁舎などの拠点施設の整備が進み、土地利用の促進が図られてきました（図表3-56・58・59）。これらにより、駅南地区の市街地整備機運が高まり、多治見駅を中心とした「まちなか」で、だれもが集いやすく、にぎわいある活動拠点とするための整備が始まろうとしています。

図表 3-56 駅北土地区画整理事業の整備状況



図表 3-57 都市計画の区域区分と用途地域



出典：多治見市「統計たじみ」

第7次総合計画策定に向けた課題

① 都市形成

商業施設、総合病院などの都市中心機能の誘導・集積を図る必要がある多治見駅を中心とする「まちなか」と郊外住宅地というこれまでの都市形成（コンパクトシティ）の考え方をあらためて確認するとともに、そうした都市形成に必要な都市計画の規制や指定、推進・促進するための事業を討議課題とします。

② まちなかににぎわいの創出

「まちなか」を中心とする市街地の整備を進め、駅周辺のにぎわいを創出し郊外の住民にも利用しやすい都市形成を進めます。また、駅北土地区画整理事業地内の高度利

用化を促すとともに、駅南地区の再開発事業にともない多治見駅南口をどのようにするかについて討議課題とします。

③ 郊外の生活圏

郊外では食品や生活用品を購入するのに不便なところもあり、人口減少や高齢化でその影響もより広がる恐れがあります。郊外の生活圏の利便性や快適性を確保・維持していくことについて討議課題とします。

④ 美しい風景づくり

住んでいる人を癒し、訪れる人を和ませるような本市ならではの盆地と土岐川に代表される美しい風景づくりを行政と市民がいかに広めていくかを討議課題とします。

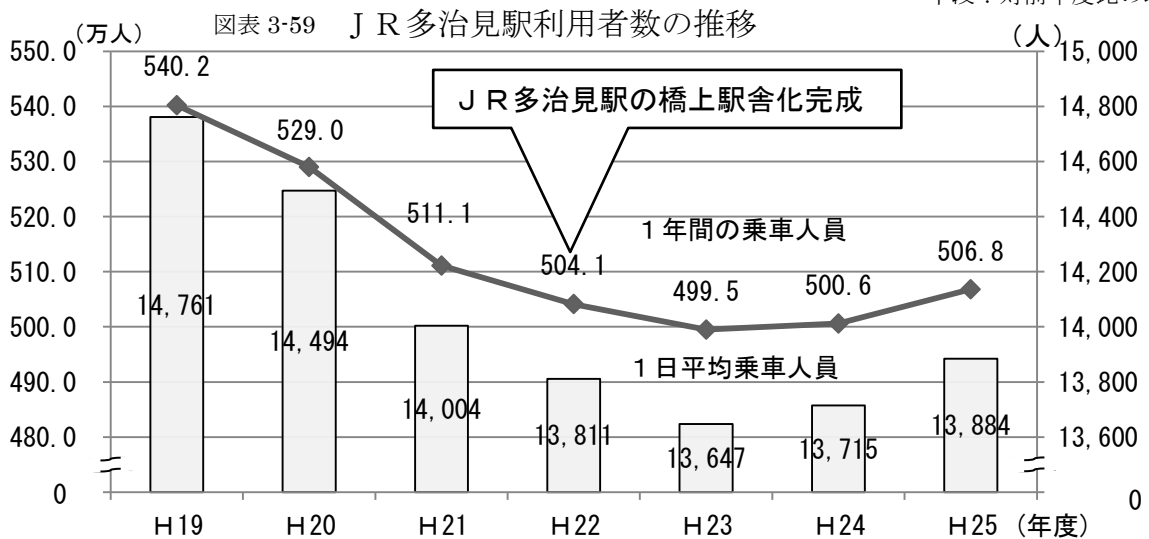
図表 3-58 地価公示（地価調査）価格 抜粋

用途区域	所在	(年度)	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
住宅地	金岡町3丁目34番1	(円/㎡) (%)	47,700 0.00	47,600 ▲ 0.21	47,100 ▲ 1.05	46,700 ▲ 0.85	47,700 2.14	48,600 1.89	49,000 0.82
住宅地	北丘町7丁目6番66	(円/㎡) (%)	32,300 ▲ 1.52	32,000 ▲ 0.93	31,400 ▲ 1.88	30,700 ▲ 2.23	30,400 ▲ 0.98	29,900 ▲ 1.64	29,500 ▲ 1.34
住宅地	脇之島町7丁目43番20	(円/㎡) (%)	35,900 ▲ 0.28	35,700 ▲ 0.56	34,400 ▲ 3.64	33,400 ▲ 2.91	32,700 ▲ 2.10	32,100 ▲ 1.83	31,800 ▲ 0.93
住宅地	上野町4丁目15番1	(円/㎡) (%)	57,900 1.22	57,700 ▲ 0.35	57,600 ▲ 0.17	57,600 0.00	58,500 1.56	59,700 2.05	61,000 2.18
住宅地	笠原町字中原1188番8	(円/㎡) (%)	28,300 ▲ 2.41	27,200 ▲ 3.89	26,200 ▲ 3.68	25,000 ▲ 4.58	24,100 ▲ 3.60	23,300 ▲ 3.32	22,800 ▲ 2.15
商業地	栄町1丁目5番外	(円/㎡) (%)	115,000 0.00	114,000 ▲ 0.87	111,000 ▲ 2.63	109,000 ▲ 1.80	109,000 0.00	110,000 0.92	111,000 0.91
商業地	小路町14番	(円/㎡) (%)	62,000 0.00	61,000 ▲ 1.61	60,000 ▲ 1.64	59,500 ▲ 0.83	59,000 ▲ 0.84	58,800 ▲ 0.34	58,800 0.00
商業地	音羽町4丁目85番	(円/㎡) (%)	92,200 0.55	90,400 ▲ 1.95	90,100 ▲ 0.33	89,800 ▲ 0.33	89,800 0.00	90,500 0.78	91,300 0.88

出典：国土交通省「地価公示」、岐阜県「岐阜県地価調査」

上段：価格

下段：対前年度比の増減率



[政策分野] 都市基盤 2 居住環境

第6次総合計画期間における成果

火災予防・啓発活動などを活動目的とする女性消防隊の発足をはじめ、地域と連携した消防・救急救命体制の整備、自主防災活動への支援や公共施設の耐震化など、安心して住み続けられる居住環境の整備に力を注ぎました（図表 3-60・62）。

また、平成 23 年 9 月の豪雨災害を受け、

浸水対策実行計画を策定し、国の推奨する「100mm/h 安心プラン」に登録されました（図表 3-61）。このことにより、国費財源の実行性が担保され、浸水に対する安全度が向上する見込みとなりました。

更に、防災的な空き家対策について、国に先駆けて条例を整備し対応しました。

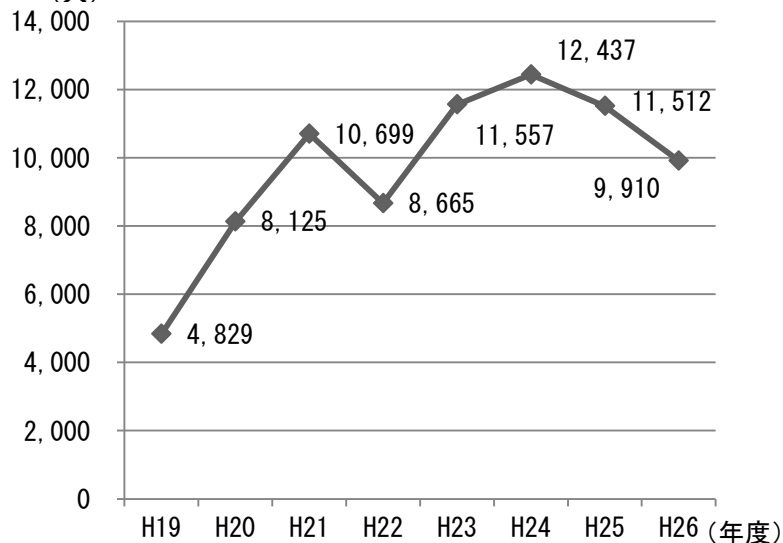
図表 3-60 女性消防隊の発足



図表 3-61 土岐川右岸ポンプ場完成予想図



図表 3-62 救急救命講習受講者の実績 (人)



※H26 年度は 12 月現在の人数

●他市比較 (平成 25 年度)

	参加者数
多治見市	11,512 人
土岐市	1,989 人
瑞浪市	未掲載
恵那市	1,653 人
中津川市	未掲載
可児市	3,197 人
岐阜市	15,804 人
大垣市	9,411 人
各務原市	4,063 人

出典：多治見市「消防年報」

第7次総合計画策定に向けた課題

① 安全・安心な住環境整備の更なる充実

本市の人口減少要因の一つである転出超過を食い止めるために住み続けたい街には何が必要で、市外から見て魅力ある住宅事情とは何かと言う視点などから住宅政策について討議します。

また、高齢者（特に単身者）の住居の確保、徐々に増えている空き家に関する予防策・対応策が課題です^新。

このほか、様々な住宅施策の課題に対し、老朽化が進む市営住宅がどこまで担えるかが、課題となっています(図表 3-63)。

② 防犯・防災の共助

安心・安全な生活を続ける、また、自然災害時への対応においては、日頃からの地域での準備や共に助け合うという意識を高

めておく必要があります、どのような準備やそうした意識をいかに醸成するかを討議課題とします。

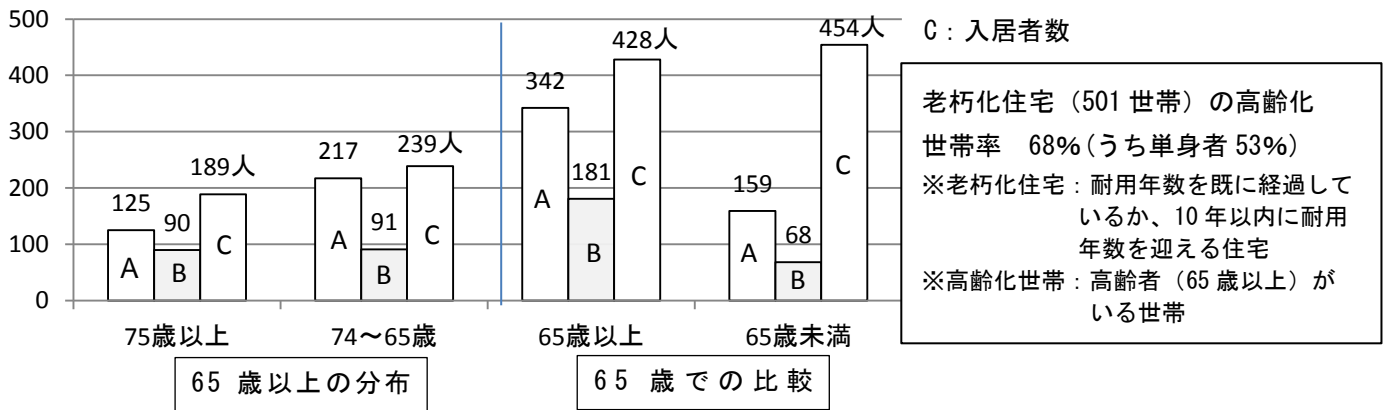
浸水対策実行計画に基づいた事業(河川改修、ポンプ場建設など)については、着実に推進し計画どおりに完了するよう努めます(図表 3-64)。

③ 消防・救急活動の充実

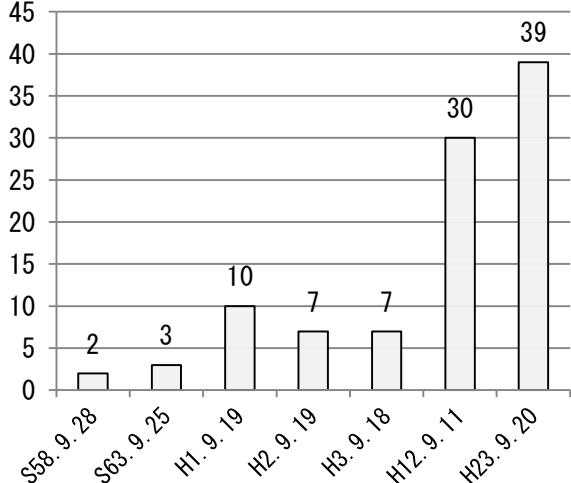
消火・救急活動や災害応急に必要な施設、設備、機材等が適切に備わり、効率的・効果的に管理運用されているかを総点検し、計画的な更新、整備などについて検討します(消防本部・消防署・消防団)。

消防団においては、昼間帯における活動人員不足や高齢化にいかに対応していくかが課題となっています(図表 3-65)。

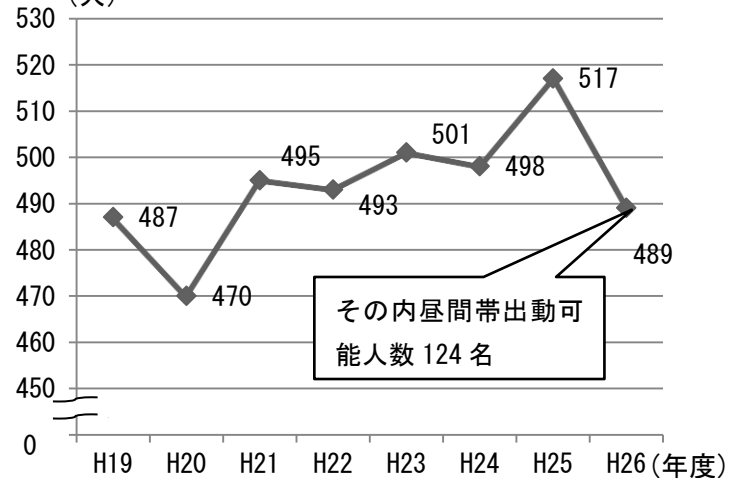
(世帯、人) 図表 3-63 市営住宅の高齢化世帯の状況



(ha) 図表 3-64 豪雨災害による浸水面積



(人) 図表 3-65 多治見市の消防団員数の推移



[政策分野] 都市基盤 3 交通政策

第6次総合計画期間における成果

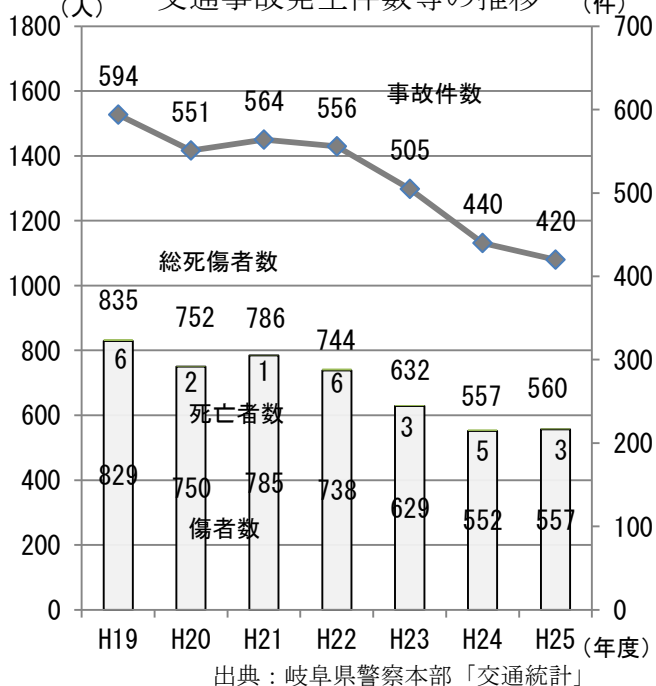
市内の各地域が活発に交流できるよう、多治見インター交差点から国道19号住吉町までを結ぶ道路（愛称 陶都通り）の4車線化などを行い、渋滞緩和に努めました（図表3-66）。

また、高齢者や障がいのある人も安全・安心に移動できるよう、コミュニティバスのルート改編を行い、鉄道やバスなどの公共交通のネットワーク化に努めてきました（図表3-68）。

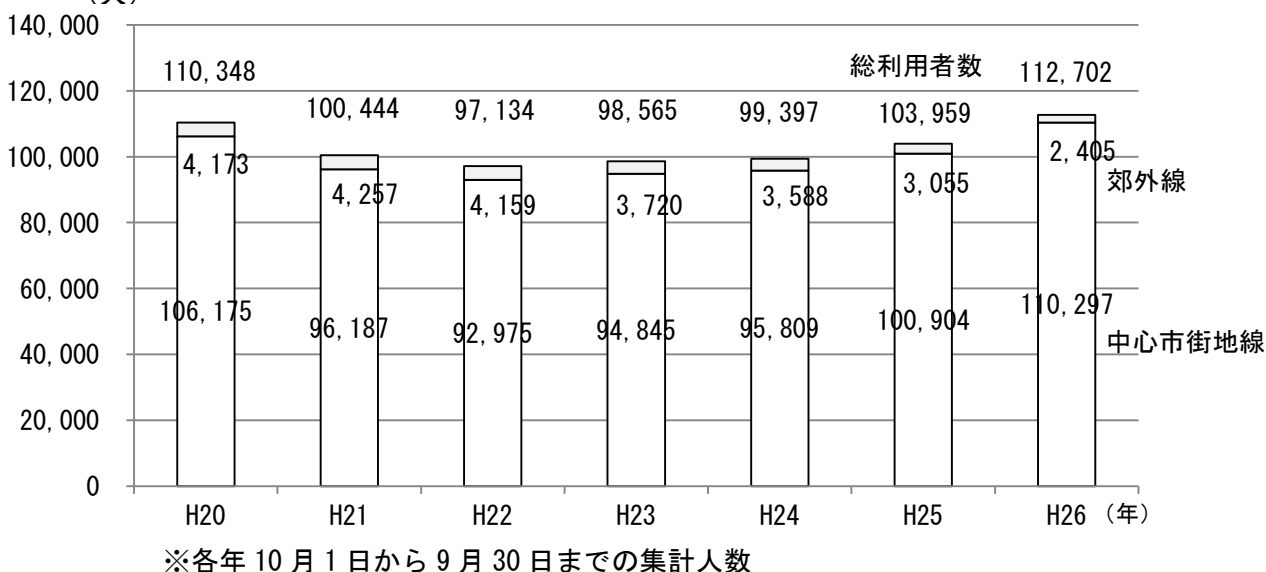
図表3-66 陶都通りの4車線化



図表3-67 交通事故発生件数等の推移



図表3-68 コミュニティバス利用者の状況



第7次総合計画策定に向けた課題

① 短期・中長期的に見た交通政策

渋滞なく移動できる道路整備、高齢化が進み市民の移動手段の変化などの観点から、直面する課題の解決、中長期的な課題などを整理し、道路整備、公共交通機関の活用など交通政策全般をいかに考えるかを討議します。(図表 3-70)

直面する課題として次のようなものがあります。

② まちなかと郊外を結ぶ交通

まちなかと郊外という都市形成において、移動手段として自家用車を有しない市民にとって、大きな病院や商業施設へ行く場合は、郊外とまちなかを結ぶバス等の利用が必要となります。移動手段やそのネットワークを討議課題します。

③ 渋滞のないスムーズな道路整備

多治見駅周辺のまちづくりを進める中で、

道路網をどのように整備するか既存計画等を参考にし、検討します。

また、市域全体には渋滞が解消されていない箇所が散見しているため、どのような優先順位により整備するかを討議課題とします(図表 3-69, 70)。

④ 高齢者などの交通弱者を中心とした交通安全整備の促進

「人」にやさしい交通施策を進めるため、歩行者、高齢者などの交通弱者の安全確保をいかに進めるかをハード・ソフトの面から検討します(図表 3-67・70)。

⑤ 道路や橋などの効率的な管理計画を見据えた維持・修繕の実施

交通政策を押し進めて行く反面、既存の道路や橋梁など維持修繕には多額の費用がかかるため、費用の抑制や効率的な管理をどのように行うかを討議課題とします。

